

## 「性能証明」【お知らせ】2020年度の実績について

証明実績件数：41件



図1 2020年度の証明実績（新規、改定）（件）

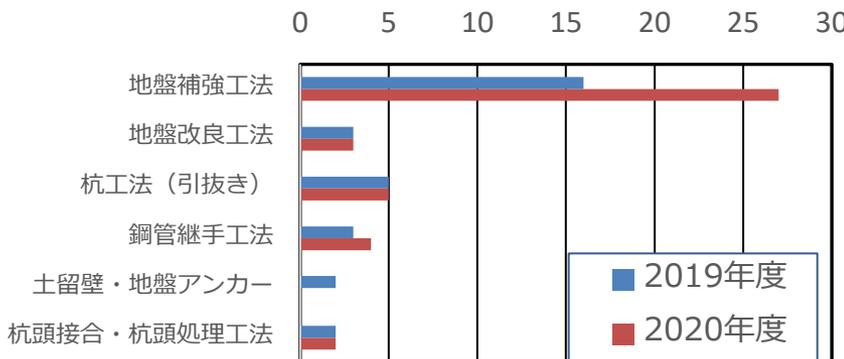


図2 2019年度と2020年度の工法別の比較

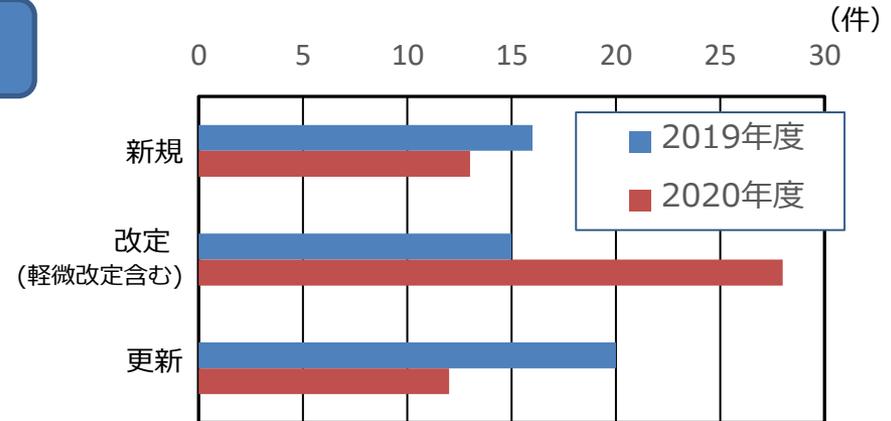


図3 2019年度と2020年度の申込区分別の比較

2020年度の実績（新規と改定（軽微改定を含む）の計）を図1に、2019年度と2020年度について工法別と申込区分別に比較したものをそれぞれ図2と図3に示します。図2から地盤補強工法が2019年度の倍程度の件数、図3から新規件数は2019年度と同程度に対し、改定（軽微改定を含む）は2019年度の倍程度となっていることが分かります。

ご依頼いただいた申込者様には大変お世話になりました。今年度も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

**【お知らせ】 申込書・申請書の押印不要について**

従来、押印版の申込書・申請書をご提出いただいておりますが、2021年4月1日より原則、申込書・申請書の押印は不要となりました。委員会毎の変更点について、以下に示します。

**基礎技術性能証明委員会****【性能証明案件】**

- ・クラウドの申込書の押印欄削除により、印刷資料での提出は不要

**【安全審査】**

- ・申請書はPDFのメール提出
- ・審査依頼者の押印も不要。なお、審査依頼者が特定行政庁の場合は、特定行政庁よりGBRCに審査依頼事項について確認した旨のメール連絡が必要

**基礎構造性能評価委員会**

- ・申請書はPDFデータでメール提出
- ・受付委員会前にメールで申請書内容の確認を行う

**注意点**

申込・申請内容に変更がある場合は、受付委員会前日までにご連絡ください。受付委員会後は申請者等変更願の提出が必要となります。

**【お知らせ】 決裁について**

性能証明案件は原則、報告委員会後に決裁用印刷資料をご提出いただいておりますが、2021年4月1日より電子決裁を開始したことにより、印刷資料のご提出は不要となります。今後は、以下のような流れとなります。

**GBRC**

事務局が報告委員会提出時の印刷資料で、決裁前チェックを行う

**申込者**

修正された資料一式データをクラウドにアップ

**GBRC**

資料の修正が確認できれば、決裁開始

**メリット**

決裁用印刷資料の準備が不要

現在移行中で不慣れな点もあり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 「性能評価」【お知らせ】電子申請について

基礎構造性能評価委員会では、国交省の大臣認定申請も行っております。提出資料や提出方法が変わりましたのでご連絡します。

### 変更点

- ・国交省申請用および返却用別添の印刷資料がPDFデータでの提出に変更
- ・返却用別添は、PDFデータで返却
- ・『受領書』はサインしたものをスキャンしてメールで返信することにより受領の確認を行う（サイン後郵送でも可）
- ・『施工指針の変更にかかる報告義務（覚え書き）』はWordデータをお送りするので、PDF化したものを返送することにより確約されたことの確認とする（押印後郵送でも可）

### 注意点

- ・これまでの印刷資料の提出に代わり、今後はGBRCにPDFデータ一式を提出する必要があります。
- ・従来通り、国交省担当官説明用にV章のWordはご提出ください。

表1 印刷資料での提出一覧表※1

	国交省申請用	GBRC控え	返却用別添
旧	①～③	①～④	①
新	不要	①～④	不要

※1 資料は以下の通りである。

①別添、②別表、③議事録、④Ⅲ章～Ⅵ章

### 【お知らせ】2021年度の委員会開催案内

2021年度の委員会開催日をお知らせします。

詳細は別紙①委員会開催予定カレンダー（性能証明）をご確認ください。

開催日：毎月第3火曜日

## 《性能評価》【技術コラム】基礎ぐい（押し込み方向）について

GBRCでは押し込み方向と引抜き方向で基礎ぐいの評価が可能です。荷重の方向により対応委員会が異なり、押し込み方向は基礎構造性能評価委員会（大臣認定）、引抜き方向は基礎技術性能認証委員会（独自事業）での審査となります。基礎構造性能評価委員会と基礎技術性能認証委員会の違いについてはvol.10をご参照ください。

今号では押し込み方向の先端翼付き回転貫入鋼管ぐい工法をご紹介します。

申請についての注意点は基本的に鋼管を用いた地盤補強工法（vol.2）と同じとなりますので、追加の注意点を表2に示します。

基礎技術メールサービスURL Vol.2 : [https://www.gbrc.or.jp/assets/documents/center/shomei\\_info02.pdf](https://www.gbrc.or.jp/assets/documents/center/shomei_info02.pdf)  
Vol.10 : [https://www.gbrc.or.jp/assets/documents/center/shomei\\_info10.pdf](https://www.gbrc.or.jp/assets/documents/center/shomei_info10.pdf)

表2 申請時の注意点

項目	注意点
申請	<ul style="list-style-type: none"> <li>申請者毎かつ先端地盤種別※1ごとに申請を行う。</li> <li>改定の手続きがないため、変更の場合でも新規申請扱いとなる。※2</li> </ul>
$\bar{N}$ 、 $\bar{N}_s$ 、 $\bar{q}_u$	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>N</math>値等の範囲は載荷試験で確認できた範囲となるが、上限が定められている。<math>\bar{N}</math>は60、<math>\bar{N}_s</math>は30、<math>\bar{q}_u</math>は200kN/m<sup>2</sup>が上限となる。※3</li> </ul>
使用材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象となるJIS、大臣認定番号だけでなく、公差についても明記する。公差のJISがあれば準拠する旨明記でも良い。</li> </ul>
立会試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>立会試験は施工の確認と載荷試験の確認の二種類を行う。</li> </ul>

※1 先端地盤種別とは砂質地盤、礫質地盤または粘土質地盤の三種類である。なお、砂質地盤に礫質地盤を含んだ申請も可能だが、載荷試験を行い砂質地盤と礫質地盤で荷重変形曲線等に大きな違いがないことを確認する必要がある。

※2 変更内容により部会開催の要否が異なるため事前相談が必要。

※3  $\bar{N}$ 等が上限値を超えているデータについても $\bar{N}$ 等の実測値を用い支持力係数を検討する。

## 《性能評価》【技術コラム】基礎ぐい（押し込み方向）について

GBRCで性能評価を取得した先端翼付き回転貫入鋼管ぐい工法の先端支持力のデータを表3、図4および図5に示します。なお、極限先端支持力は、載荷試験においてぐい先端沈下量がDw（先端翼部径）の10%に達した時点と定義し、この時に所定の時間（30分）荷重保持が出来ているデータを検証対象としています。また、先端有効断面積は水平投影円の面積から求め、 $\bar{N}$ の算定範囲はぐい先端から上下1Dwの範囲としています。

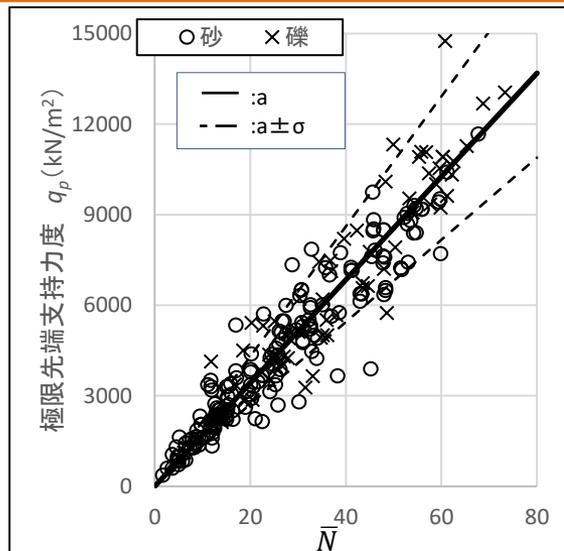


図4 砂質地盤（礫質地盤を含む）

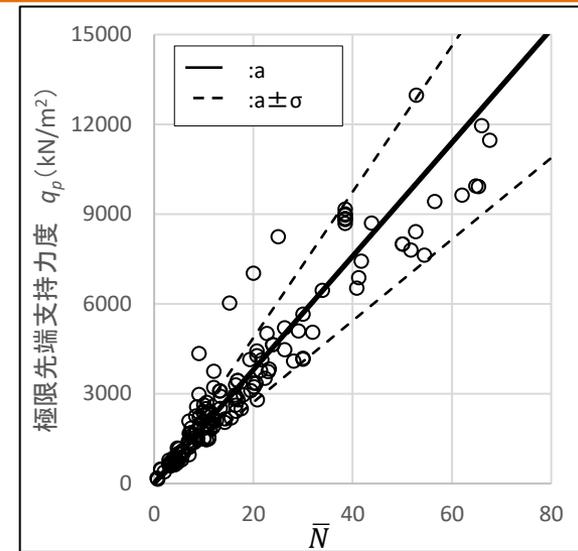


図5 粘土質地盤

表3  $q_p / \bar{N}$  (=先端支持力係数 $\alpha$ ) に関する検証結果

先端地盤	データ数 (工法数)	平均値a	標準偏差 $\sigma$	変動係数
砂質地盤 (礫質地盤を含む)	242(21)	171	40	0.23
粘土質地盤	151(15)	190	54	0.27

今年の4月より性能評定課に配属となりました岡谷（おかたに）です。出身は香川県で、大学への入学をきっかけに、大阪に移住しました。

超高層建築物等の性能評価だけでなく、基礎技術の方でも、一所懸命に業務に励みたいと思っております。何より楽しむことを忘れずに、これからの日々を送れるよう尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（編集後記：岡谷）

2021年  
4月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

第2月曜日です。

5月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

7/13~15地盤工学研究発表会

8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

第2月曜日です。

9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

9/7~10: 日本建築学会大会

9/27~10/2: 世界地震工学会議 (17WCEE)

10月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2022年

1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

2/25~26: 大学入試

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

赤字 : 日曜日及び祝日

RC・鉄骨・その他委員会開催日  
基礎委員会開催日

原則: 第1火曜日  
原則: 第3火曜日